

J.LEAGUE Official News Letter vol. 104 18.May.2004

NEWS



編集・発行
社団法人日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

Amazing J.

スポーツで、もっと、幸せな国へ。 Jリーグ百年構想

ファミリーJoinデイズ



© J.LEAGUE PHOTOS

「ファミリーJoinデイズ」を開催

Jリーグは4月29日から5月9日の期間に開催されるJ1、J2リーグ戦、ヤマザキナビスコカップの試合に合わせ、恒例の「ファミリーJoinデイズ」を開催した。

「ファミリーJoinデイズ」も今年で5回目。家族で楽しめるサッカーゲームやホームタウンの特色を生かしたイベントなど、各クラブが趣向を凝らした企画を実施し、ファン・サポーター、ホームタウンの人たちで賑わった。また、参加者などに、ファミリーJoinデイズオリジナルグッズの「Mr.ピッチ携帯ケース」がプレゼントされた。

CONTENTS

ファミリーJoinデイズを開催……………1-3
TOPICS 「2004JOMOオールスターサッカー」ポスター／サガン鳥栖の経営支援／J-WAVEの番組を提供／経営諮問委員会委員選任／日本芝草学会シンポを後援／国連支援募金運動を後援／「社会を明るくする運動」に協力……………4
Jリーグキャリアサポートセンターレポート……………5

こんな楽しいスポーツはない！／Jリーグはすがすがしいプレーを推し進めていきます……………6
アルビレックス新潟、もう一つの挑戦……………7
2003Jリーグ スタジアム観戦者調査……………8-9
VOICE すべての基本はJリーグにある 石倉 勇……………10

J.League Official Sponsors

Calbee

Canon

SUNTORY

JOMO

NicoS

LAWSON

KONAMI

Network Partner

NTT 東日本 / **NTT** 西日本

League Cup Sponsor

ヤマザキナビスコ

Jリーグ百年構想
パートナー
朝日新聞

ファミリーJoinデイズ

4/29 湘南ベルマーレ 芝生教室

平塚市総合公園内で毎年行われる緑化まつりの会場で芝生教室を実施した。平塚競技場のピッチを管理しているグラウンドキーパーが講師になって芝生の育て方を教える。北康二郎さん(18歳、東京農業大学1年)は「中学、高校と北海道のクラブユースでサッカーをやっていた。夕張の天然芝のグラウンドを使って練習していたのですが、その経験からグラウンドキーパーを目指そうと思い、勉強しています」と、真剣なまなざしで聞き入っていた。

この日芝生教室は4回行われ、毎回40～50人が参加。講師の小林徹也さん(湘南造園)は「一般の人たちの関心が高いのにびっくりしました。芝生が増えてもっと目にするようになれば、さらに関心が高まると思います」と話していた。

参加者にはMr.ピッチの携帯ケースと芝生の種がプレゼントされた。



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

4/29 横浜F・マリノス スタジアム見学会、親子サッカー教室

「ふれあいサッカー教室」をファミリーJoinデイズにちなんで、「親子サッカー教室」として実施した。この日は、横浜FMの木村浩吉氏、永山邦夫氏、田中豊氏、青木寿人氏ら4人の育成・普及コーチが、事前に募集した親子50組(約100人)に指導した。

宮内寧亜ちゃん(8歳)親子は「シュートは決められなかったけどとても楽しかった。本物のピッチで初めてサッカーをできたことがうれしかった」と笑顔で話していた。

また、「スタジアム見学会」も行われ、石原和行君・秀樹さん親子は「VIPルームやロイヤルボックスに行くことができ、貴重な体験ができた」と話していた。



© J.LEAGUE PHOTOS

5/2 鹿島アントラーズ 2004サントリー/Jリーグ スポーツクリニックとJoin

サントリーのラグビーチーム、サンゴリアスと鹿島アントラーズのジョイントによる「2004サントリー/Jリーグスポーツクリニック in KASHIMA」。ラグビー教室は、サンゴリアスの永友洋司監督、地元茨城県出身で日本代表の栗原徹選手、小野澤宏時選手が、サッカー教室は、長谷川祥之コーチ、本山雅志選手、新井徹選手がコーチとなったスポーツクリニックを実施、約270人の小学生が参加した。



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

5/2 ガンバ大阪 エンジョイパーク

恒例の「エンジョイパーク」を、ファミリーJoinデイズにちなんで親子対決の場として実施し、バスターゲットやドリブル競争、キックターゲットなどを競った。

両親と弟と来た大沼怜奈ちゃん(10歳)は「初めてエンジョイパークに来ました。すごく楽しい」と元気いっぱい。お母さんも「家族みんなサッカーが大好きで、ガンバの試合は5回目です。今日は初めてドリブルゲームをしました」と話していた。

また、朝日新聞大阪本社の協力で行われた「朝日シュートスピードチャレンジ」では、大人男女、小学生以下男女それぞれ上位3位の入賞者にG大阪選手の直筆サインがプレゼントされた。

今回のエンジョイパークには約700人が参加した。



5/2

大分トリニータ

キックでJoin

大分トリニータでは家族4人でボールをキックして飛距離を競う「キックでJoin」が行われ、50組を超す応募者の中から選ばれた4組の家族が挑戦。大分の西山哲平、浦本賢太郎両選手もそれぞれの家族に助っ人として加わった。

優勝したのは、合計105.5メートルを記録した宮崎県延岡市の中尾さん一家。ゴール裏のトリニータサポーターから「中尾コール」も飛び出し、「信じられないくらい嬉しい!」と興奮気味に話していた。中尾さんファミリーには、優勝の賞品として、大分～阪神間のフェリー乗船券とトリニータグッズなどが贈られた。



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

7回目となる「サポーターカレンダー」の撮影会には、初日となる5日、764人のサポーターが集まった。お母さんと弟と来た山田奈穂ちゃん(9歳)は「サポーターカレンダーは3回撮ってもらいました。カレンダーは毎年大切にとってあります」と話していた。この撮影にMr.ピッチも飛び入り参加し、トレードマークの百年構想たすきをかけ、りりしい顔(?)でポーズをとっていた。

浦和の広報Gチーフマネジャー、佐藤仁司氏は「10年は続けたいと始めた撮影ですが、5年間は赤字で、ここまで続くと思わなかった」と満足気な笑み。近藤篤カメラマンも「2000人のサポーターを撮るにはその10倍以上のサポーターがいないとできません。こうしたことを続けられるクラブもそんなにはないでしょう。そういう意味でもレッズは素晴らしいクラブだと思います」と話していた。

サポーターカレンダーは、5月5日から8月29日までの期間中、公式試合の会場で4回にわたって行われる。



© J.LEAGUE PHOTOS

5/5

浦和レッズ

サポーターカレンダー
2005

© 浦和レッズ

5/5

水戸ホーリーホック

ファミリー青空ワークショップ

「ファミリー青空ワークショップ」は、ビニール袋を風船に見立て、水戸のキャラクター、ホーリー君を作ったり、帽子や服などをかたどった厚紙に思い思いの絵を描く、という楽しいワークショップ。応援のスタンドは色とりどりの紙の服を着た子供たちが試合を盛り上げ、まるでお遊戯会のような可愛らしさであふれていた。



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

5/5

名古屋グランパスエイト

子供サッカー教室

「子供サッカー教室」は、北村隆二、深津康太、森敬史選手らが講師を務めた。参加した約150人の小学生はドリブル、リフティング、シュート、ボールの奪い合いなど、楽しいゲームで汗を流した。また、「親子スタジアム見学会」には30組の家族が参加し、スタジアム内を丹念に見学した。



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

Big Star in Big Swan 「2004JOMOオールスター サッカー」ポスター

7月3日(土)18:00から新潟スタジアム ビッグスワンで行われる「2004JOMOオールスターサッカー」のポスターが完成した。

メインビジュアルはJリーグのスター選手がビッグスワンに集う様子をイメージしている。夕焼けの空にたたずむビッグスワンは新潟・鳥屋野潟のほとりに浮かぶ白鳥の美しいフォルムを彷彿(ほうふつ)とさせる。

新潟スタジアムで初めて行われる「JOMOオールスターサッカー」が、地元新潟をはじめ全国のファン・サポーターの年に一度の素晴らしい思い出となるようにとの願いを込めている。



サガン鳥栖の経営支援

Jリーグは4月20日に開催した理事会でサガン鳥栖の経営問題について審議し、完全な株主権放棄(100%減資)に関する任意の同意を今年6月末までに得られなければ、Jリーグからの支援を白紙に戻すことを決めた。

Jリーグではサガン鳥栖の経営危機について、100%減資を条件に、減資後1年以内はJリーグの関連会社が支援するとしていた。今回の理事会はその同意期限を6月末としたもので、Jリーグはこの決定をサガン鳥栖の古賀照子社長に書面で通知、併せて佐賀県知事と鳥栖市長にも写しを送った。

J-WAVE GOOD MORNING TOKYOの番組『J.LEAGUE FROM THE PITCH』を提供

Jリーグは4月5日からFM放送のJ-WAVE(81.3FM)で『J.LEAGUE FROM THE

PITCH』をスタートした。

同番組は、J-WAVE「J-WAVE GOOD MORNING TOKYO」内で放送されているもので、毎週月曜日から金曜日のAM 8:07～8:12の5分間、Jリーグをはじめ、サッカーにまつわる話題を放送。ナビゲーターは、Jリーグアウォーズの司会などを務めるジョン・カピラ氏。

■番組名

J-WAVE GOOD MORNING TOKYO
『J.LEAGUE FROM THE PITCH』

■放送時間

毎週月曜日～金曜日 AM 8:07～8:12

■ナビゲーター

ジョン・カピラ

経営諮問委員会委員選任

Jリーグは4月20日に開催した理事会で、経営諮問委員会の委員に田島優子氏を選任した。任期は2006年1月31日まで。

経営諮問委員会	
委員長	武藤 泰明
委員	荒田 忠典
	石川 順道
	原田 宗彦
	宮 裕
	依田 成史
	瀧井 敏郎
	田島 優子 (*新任)

■田島優子氏のプロフィール

1952年7月生
1975年3月 東京大学法学部卒業
1979年4月 東京地検検事
1992年3月 退官
1992年4月 弁護士登録(東京弁護士会)、
さわやか法律事務所勤務

日本芝草学会2004年度 春季大会公開シンポジウム 「こうすればかなう、 芝生の校庭・園庭」を後援

Jリーグは、日本芝草学会春季大会運営委員会が主催する日本芝草学会2004年度春季大会公開シンポジウム「こうすればかなう、芝生の校庭・園庭」(6月6日 日曜 13時～日本大学生物資源科学部本館大講堂)を後援する。

シンポジウムでは、近藤三雄氏(東京農業大学教授)の基調講演「21世紀はスクールタ

ーフの時代」をはじめ、千葉県・平賀小学校元校長の佐藤光利氏(千葉市スポーツ振興財団)の「私はこのように校庭を芝生化したーその経験と展望」(仮題)、竹間肇氏(東洋グリーン株式会社)の「校庭の芝生化と基本設計」、日本芝草管理技術者会会長・大和田勝弘氏の「芝生の維持管理一日々の観察とおもいやりー」といった講演が行われる。また、(財)日本サッカー協会川淵三郎キャプテン、Jリーグ佐々木一樹理事からのメッセージ、横浜市立高田東小学校、東京・杉並区立和泉小学校、川崎市立金程小学校の児童・卒業生からの体験談なども発表される。

平成16年度『ダメ。ゼッタイ。』 国連支援募金運動を後援

Jリーグは、厚生労働省、都道府県、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催する「平成16年度『ダメ。ゼッタイ。』国連支援募金運動を後援する。同運動は、全世界に広がりを見せている薬物乱用問題に取り組むため、「国連薬物乱用根絶宣言」(1998～2008年)の支援事業の一環として行われている。国民一人ひとりの薬物乱用問題に対する認識を高め、併せて国連決議による「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図って、国内外の薬物乱用を防止する。活動期間は、2004年6月20日～7月19日の1カ月間。「6・26ヤング街頭キャンペーン」が、原則として6月26日(土)または27日(日)に実施される。

「社会を明るくする運動」に協力

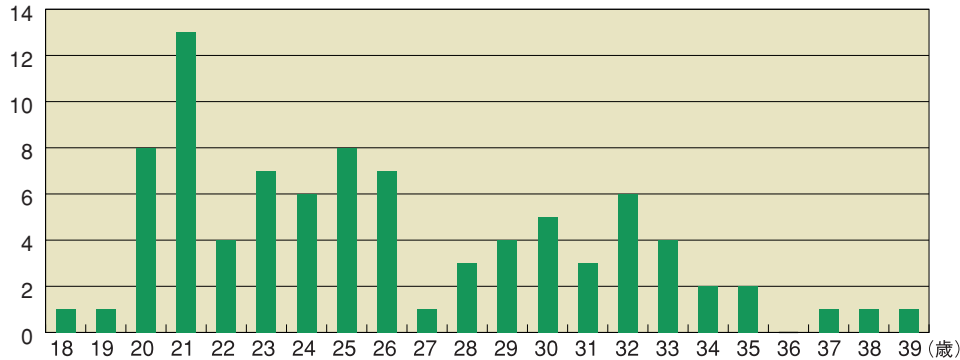
Jリーグは昨年に引き続き、法務省が主催する「第54回『社会を明るくする運動』」に協力する。これは、全ての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人の更生についての理解を深め、それぞれの立場で力を合わせて犯罪や非行のない明るい社会を築こうという全国的な運動で、強調月間は7月1日から31日の1カ月間。Jリーグは、この期間に行われるJ1リーグ、J2リーグおよびヤマザキナビスコカップの試合会場で場内アナウンスや電光掲示板などで告知活動を行う。

Jリーグキャリアサポートセンターレポート

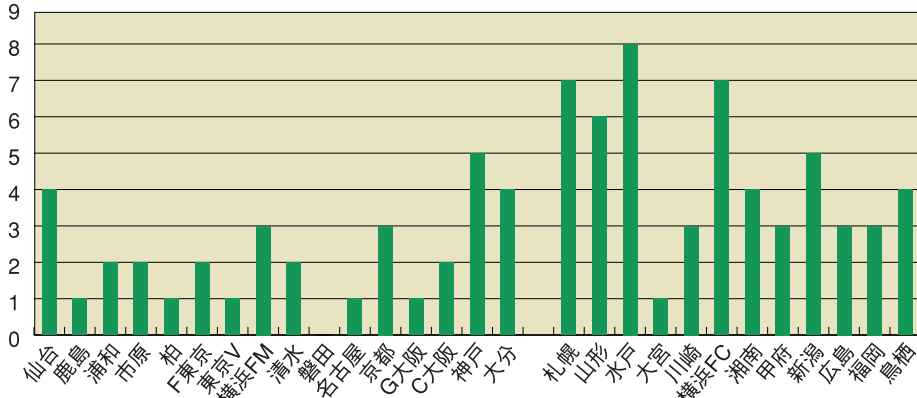
■2003年度の登録抹消選手は88人

2003年11月末時点でクラブから2004年度契約を提示されなかった選手は145人。そのうち57人が12月上旬から翌3月末までに移籍先を決定し、新たにJクラブと契約を結んだ。従って、Jクラブが登録を抹消した選手は88人となる。

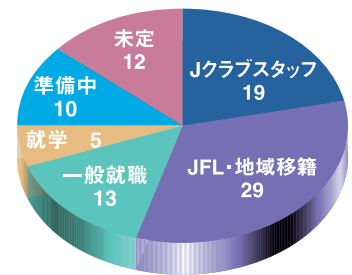
(人) ■登録抹消選手の年齢別選手数



■クラブ別選手数 (J1=34、J2=54)



■登録抹消選手の進路内訳



* JFLへの移籍が3割を超え、29人となった。これは、合同トライアウトでのスカウティングも影響していると考えられる。その他、Jクラブスタッフ19人、大学・専門学校進学5人、一般就職は2004年3月末時点で13人となっている。準備中が10人、未定の者が12人。

■キャリアサポートセンターの支援状況

●就職就学ガイドブック『Off the Pitch 2003』を全クラブに配布

民間企業求人情報210社(2003年120社)、コーチ求人情報40団体(2003年20団体)、JリーグOB掲載40人(2003年32人)

●独立開業セミナー

2003年度から実施。すでに独立して活躍するOB 5人を講師に、独立開業に興味を示す元選手11人が参加

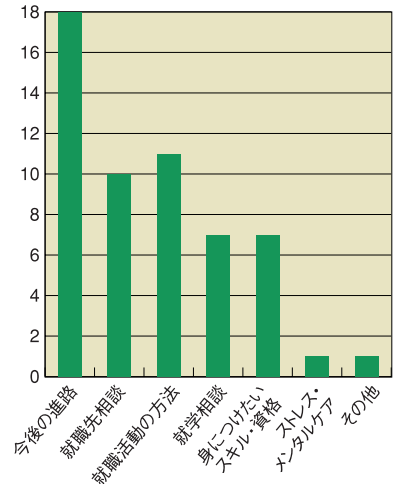
●出張個別相談会

12月上旬から翌3月下旬まで全国4会場(仙台・東京・大阪・福岡)を中心に計12回実施

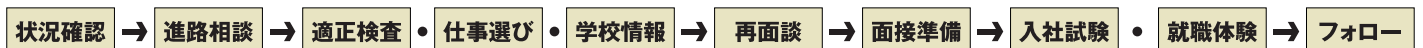
■相談会参加選手36人(*2002年は35人)

進路	人数
選手続行(Jクラブへ移籍)	3
選手続行(JFL・地域リーグへ移籍)	7
就職A(Jクラブへ就職)	3
就職B(サッカー関連)	6
就職C(サッカー関連以外)	3
就・復学	5
継続活動中	9
合計	36

■参加選手相談内容(複数回答)



■支援の流れ



*就職体験(インターンシップ)は2003年度が初めての実施となり、5人の現役選手が体験(実施時期:2004年1月)

■キャリアサポートセンターの支援により就職・就学が決まった選手



現在8人

◇就職B:民間サッカー関連に3人 ◇就職C:民間企業に3人 ◇就学:2人

こんな楽しいスポーツはない！ ～タッチ＆フラッグフットボール関東大会に参加して～

横浜マリノス株式会社
事業本部CS企画推進部

根本正人

2004年2月21日、横浜マリノス新子安グラウンド。試合前のセレモニーで、こんな紹介をされました。

「今日参加された皆さんの中で、ただひとつ、非常に心配なチームがあります。Jリーグから初めて参加する横浜F・マリノスです」

Jリーグが推進するタッチ＆フラッグフットボールに、これまでグラウンドを提供することはあったものの、出場は初めてです。

この競技は5人制で、うち2名は女性。

腰に付けたヒモを奪い合う以外は、アメリカンフットボールと同じように、タッチダウンを多く奪ったチームが勝ち。

F・マリノスチームは営業から私を含め2名にサッカースクールのコーチとレディースチームの主婦で構成された即席チームです。とはいえ、正式な大会への参加とあって、あまりみっともないプレーはできない。大会3日前に急ぎょ、メンバーを集め、同協会主事の後藤完夫さんの指導で練習会

を敢行した。攻撃、守備と一通り学び、気分だけは「横浜F・マリノスアメフト(タッチ＆フラッグフットボール)チーム」の出来上がり。

ゲームの要であるクォーターバックだけは経験

者を入れ、関東大会の予選リーグへ「いざ本番」。初戦は、開始数分で早くもタッチダウンを奪われ、防戦一方の展開。懸命に反撃し、ようやくランプレーでタッチダウン。大差での完敗だったが、一矢報いることはできました。敗者復活戦ではフォーメーションプレーも様になってきたし、2タッチダウンを奪って念願の初勝利も挙げた。結果は、参加15チーム中の10位。関係者の心配を吹き飛ばす活躍(?)にホッと胸をなでおろしました。

とにかく楽しい。誰でも簡単に参加でき、気軽にプレーできる。しかも危険なプレー禁止で、安全。本当に楽しめるスポーツだと実感しました。

日ごろの運動不足解消になるし、女性も一緒にプレーできるのもいい。Jリーグ各クラブの皆さんもぜひ参加してみてください。

私たちは、夏の大会にも出場する予定です。「まずはユニフォームを作ろう」と盛り上がっています(格好から入るのが、素人)。目指すはもちろん、優勝!!



横浜F・マリノスアメフトチーム(後列中央が根本正人氏)



「Jリーグはさすががしいプレーを推し進めています」

昨年のJリーグの公式試合で、選手が倒れた際、別の選手がボールをピッチ外に蹴り出してアウト・オブ・プレーにし、主審が負傷を確認するために駆け寄ると、倒れていた選手が急に立ち上がってプレーに戻るといったことが度々目にされた。Jリーグ監督会議等では、このような行為はフェアプレー精神に反し、原則としてプレーの中断についての判断は主審に任せる、という申し合わせを行った。Jリーグでは、Jリーグ選手をはじめ、サッカーをプレーするすべての選手に対してフェアプレーを呼びかけることとし、右記の文章を公式ホームページに掲載して啓もうすることになった。

試合中、選手が負傷により立ち上がれない状況になっている時、別の選手がボールをピッチの外に蹴り出してアウト・オブ・プレーにし、主審が負傷を確認するために駆け寄ると、倒れていた選手が急に立ち上がり、プレーに戻るという光景が、昨シーズンのJリーグで多く見られました。

Jリーグは、このような行為を、戦術的(時間稼ぎ)に利用した、フェアプレー精神に反する行為であるとして各チームの監督と議論し、今シーズンから、「原則としてプレーを中断するかどうかの判断は主審に任せる」という申し合わせをしました。

Jリーグでは、試合中、必要以上に痛いふりをしたり、時間稼ぎのために倒れているような行為をなくし、90分間のうち、中断する時間を少しでも少なくして、ファン・サポーターの皆さんにトップリーグとして質の高い、そしてフェアプレーにあふれたゲームをお見せしたいと考えております。

“S”で戦う“J” アルビレックス新潟、もう一つの挑戦

今季からJ1で戦うことになったアルビレックス新潟。その日本からはるか離れたシンガポールのSリーグでも、3月の開幕から同じ名前のチームが戦っている。その名も「アルビレックス新潟・S(シンガポール)」。チーム単位で海外のトップリーグに参加するという、過去に例を見ない画期的な試み。オペレーションマネージャーとしてチームの運営全般に携わる御法川純氏(右写真)に、その活動について聞いた。



選手が生き生きと

一まず、Sリーグに参加するに至った流れを教えてください。

御法川 1999年にSリーグで初めて日本人選手がプレーして以来、その数は次第に増えてきました。外国籍選手枠の範囲内でしたが、昨年、中国人だけのチームが参加したこともあり、日本人チームが加わる可能性も模索されました。この話が財界関係者を通してアルビレックス新潟に伝わり、とんとん拍子に進んで、昨年9月の正式調印にこぎつけたのです。

一選手たちの構成は。

御法川 選手は21人です。新潟からの期限付移籍選手と、その育成組織的なJAPANサッカーカレッジの特待生、卒業生、そして現地採用生たちです。20代前半が中心です。

一Sリーグ参加の狙いは、どのような点にあるのですか。

御法川 国際経験を積ませることです。異なる環境の中で新しいことを学んでメンタル面でのキャパシティが広がり、ゆとりも生まれてきます。そうすれば、サッカーも必然的にレベルアップしてくると思います。実際、彼ら

を知る新潟の関係者がこちらへ来て驚くのは、選手たちが生き生きとプレーしていることです。

初戦は超満員に

一ジュロンイースト競技場をホームとするに至った経緯は。

御法川 使用予定の競技場を、陸連や他のクラブが使うことになり、ここに落ち着くことになりました。サッカー専用で環境もよく、非常に満足しています。

一ファンの反応はいかがでしたか。

御法川 この競技場は2700人の収容能力がありますが、初戦は満員となりました。競技場はスポーツ省の管轄ですが、増設をお願いすることも考えています。

一ファンは、こちらに駐在している日本の方が多いいのですか。

御法川 現在は6割くらいがシンガポールの人たちです。しかし、必ずしもチームのサポーターというわけではなく、いいサッカーを見たい、というファンが多いですね。プレーを玄人的に見る人も多いように思います。

地域貢献が不可欠

一シンガポールでチームを持つ上で、特に配慮することは。

御法川 若い選手たちは、学ぶことがたくさんあります。彼らには生活面でも、チームの一員としても規則を守れるようになってほしい。日本では注目されなかった選手も、こちらでは有名人です。シンガポールで生活する日本人の代表という意識、責任感を忘れないでほしい



競技場周辺の景観

と思います。

一チーム運営については。

御法川 日本の新潟がしっかりしたクラブとはいえ、アルビレックス新潟・Sは全く別の組織です。こちらでの実績がないため、スポンサー探しは大変でした。支援を申し出てくれた企業にはとても感謝しています。

一これから、どんなチームになることを目指しますか。

御法川 選手には、J1でプレーできるようになってほしいです。同時に、日本からも若い選手がどんどんやってくるようなサイクルをつくりたいと思います。サテライトのチームも保有したいですね。また、他チームから誘いを受けたり、何年かすれば、帰化してシンガポール代表となるチャンスが訪れるかもしれない。東南アジアのほかの国でプレーする機会があるかもしれない。つまり、さまざまなチャンスがあり、選手たちにはそれをものにしてほしいと思います。

一Jリーグは地域密着を重視していますが、こちらでもそれをお考えですか。

御法川 われわれは、地域への貢献なしには存続できないクラブだと思います。地元の人たちにも積極的に門戸を開放しながら、日本的なものに理解を求める必要があります。学校に選手を派遣してサッカー教室を開いたり、各種イベントに参加することで交流の機会を増やしていきたいです。シンガポールサッカー協会の期待も大きく、それに応えていきたいです。

取材・文：石川聡



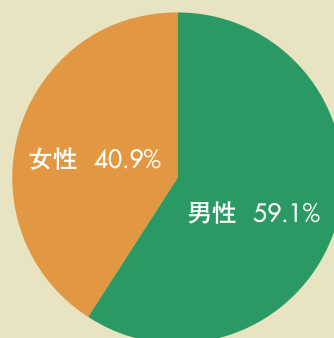
ジュロンイースト競技場で練習に励む選手たち

2003Jリーグ スタジアム観戦者調査

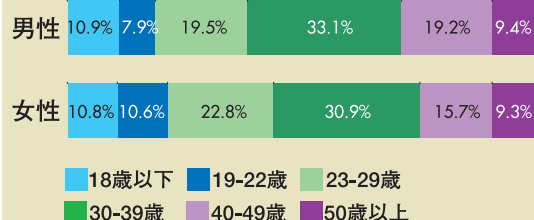
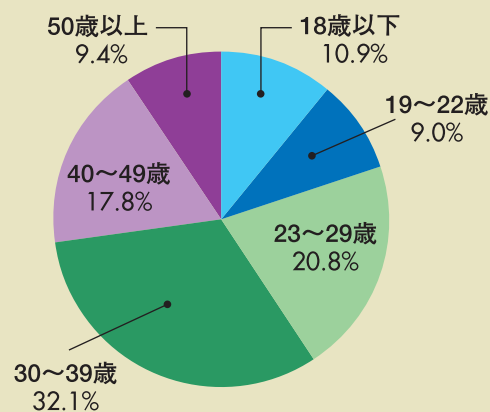
Jリーグは、2003シーズンに実施したスタジアム観戦者調査（スタジアム来場者に対して行うアンケート調査）の集計結果を発表した。なお、調査報告書はJリーグ公式サイト（www.j-league.or.jp）上で閲覧可能。

調査時期	2003年7月～11月																																																																																																																												
調査対象	スタジアム観戦者、12歳以上の男女個人 (注) 清水、磐田、名古屋の試合では、15歳以上の男女個人。新潟、京都、G大阪、C大阪、神戸、広島、福岡、鳥栖、大分では、中学生以上の男女個人。																																																																																																																												
調査方法	質問紙調査法																																																																																																																												
協 力	仲澤 眞 (筑波大学) 高橋義雄 (名古屋大学) 原田宗彦 (大阪体育大学) 藤本淳也 (大阪体育大学)																																																																																																																												
対象試合	<table><tr><th>開催日</th><th>対戦カード</th><th>スタジアム</th><th>有効回収数</th></tr><tr><td colspan="4">J1リーグ戦</td></tr><tr><td>7/6</td><td>FC東京 v 仙台</td><td>味スタ</td><td>460</td></tr><tr><td>7/12</td><td>東京V v 柏</td><td>味スタ</td><td>345</td></tr><tr><td>9/13</td><td>鹿島 v 仙台</td><td>カシマ</td><td>425</td></tr><tr><td>9/20</td><td>市原 v 柏</td><td>市原</td><td>406</td></tr><tr><td>9/23</td><td>浦和 v 市原</td><td>駒場</td><td>541</td></tr><tr><td>9/23</td><td>清水 v 大分</td><td>日本平</td><td>310</td></tr><tr><td>9/27</td><td>横浜FM v G大阪</td><td>横浜国</td><td>406</td></tr><tr><td>10/4</td><td>柏 v 名古屋</td><td>柏</td><td>426</td></tr><tr><td>10/5</td><td>大分 v 東京V</td><td>大分ス</td><td>438</td></tr><tr><td>10/18</td><td>仙台 v 市原</td><td>仙台</td><td>481</td></tr><tr><td>10/18</td><td>磐田 v 大分</td><td>磐田</td><td>348</td></tr><tr><td>10/18</td><td>京都 v 横浜FM</td><td>西京極</td><td>385</td></tr><tr><td>10/19</td><td>C大阪 v G大阪</td><td>長居</td><td>383</td></tr><tr><td>10/25</td><td>G大阪 v 名古屋</td><td>万博</td><td>440</td></tr><tr><td>11/9</td><td>名古屋 v 横浜FM</td><td>豊田ス</td><td>455</td></tr><tr><td>11/15</td><td>神戸 v 柏</td><td>神戸ウイ</td><td>353</td></tr><tr><td colspan="4">J2リーグ戦</td></tr><tr><td>8/2</td><td>新潟 v 札幌</td><td>新潟ス</td><td>897</td></tr><tr><td>9/20</td><td>水戸 v 川崎</td><td>水戸</td><td>336</td></tr><tr><td>9/27</td><td>大宮 v 広島</td><td>大宮</td><td>313</td></tr><tr><td>10/4</td><td>川崎 v 新潟</td><td>等々力</td><td>400</td></tr><tr><td>10/4</td><td>湘南 v 横浜FC</td><td>平塚</td><td>467</td></tr><tr><td>10/11</td><td>甲府 v 広島</td><td>小瀬</td><td>329</td></tr><tr><td>10/18</td><td>山形 v 甲府</td><td>山形県</td><td>480</td></tr><tr><td>10/19</td><td>鳥栖 v 横浜FC</td><td>鳥栖</td><td>255</td></tr><tr><td>11/1</td><td>横浜FC v 山形</td><td>三ツ沢</td><td>374</td></tr><tr><td>11/1</td><td>広島 v 湘南</td><td>広島ス</td><td>391</td></tr><tr><td>11/1</td><td>福岡 v 鳥栖</td><td>博多球</td><td>370</td></tr><tr><td>11/16</td><td>札幌 v 山形</td><td>札幌ド</td><td>420</td></tr></table>	開催日	対戦カード	スタジアム	有効回収数	J1リーグ戦				7/6	FC東京 v 仙台	味スタ	460	7/12	東京V v 柏	味スタ	345	9/13	鹿島 v 仙台	カシマ	425	9/20	市原 v 柏	市原	406	9/23	浦和 v 市原	駒場	541	9/23	清水 v 大分	日本平	310	9/27	横浜FM v G大阪	横浜国	406	10/4	柏 v 名古屋	柏	426	10/5	大分 v 東京V	大分ス	438	10/18	仙台 v 市原	仙台	481	10/18	磐田 v 大分	磐田	348	10/18	京都 v 横浜FM	西京極	385	10/19	C大阪 v G大阪	長居	383	10/25	G大阪 v 名古屋	万博	440	11/9	名古屋 v 横浜FM	豊田ス	455	11/15	神戸 v 柏	神戸ウイ	353	J2リーグ戦				8/2	新潟 v 札幌	新潟ス	897	9/20	水戸 v 川崎	水戸	336	9/27	大宮 v 広島	大宮	313	10/4	川崎 v 新潟	等々力	400	10/4	湘南 v 横浜FC	平塚	467	10/11	甲府 v 広島	小瀬	329	10/18	山形 v 甲府	山形県	480	10/19	鳥栖 v 横浜FC	鳥栖	255	11/1	横浜FC v 山形	三ツ沢	374	11/1	広島 v 湘南	広島ス	391	11/1	福岡 v 鳥栖	博多球	370	11/16	札幌 v 山形	札幌ド	420
	開催日	対戦カード	スタジアム	有効回収数																																																																																																																									
	J1リーグ戦																																																																																																																												
	7/6	FC東京 v 仙台	味スタ	460																																																																																																																									
	7/12	東京V v 柏	味スタ	345																																																																																																																									
	9/13	鹿島 v 仙台	カシマ	425																																																																																																																									
	9/20	市原 v 柏	市原	406																																																																																																																									
	9/23	浦和 v 市原	駒場	541																																																																																																																									
	9/23	清水 v 大分	日本平	310																																																																																																																									
	9/27	横浜FM v G大阪	横浜国	406																																																																																																																									
	10/4	柏 v 名古屋	柏	426																																																																																																																									
	10/5	大分 v 東京V	大分ス	438																																																																																																																									
	10/18	仙台 v 市原	仙台	481																																																																																																																									
	10/18	磐田 v 大分	磐田	348																																																																																																																									
	10/18	京都 v 横浜FM	西京極	385																																																																																																																									
	10/19	C大阪 v G大阪	長居	383																																																																																																																									
	10/25	G大阪 v 名古屋	万博	440																																																																																																																									
	11/9	名古屋 v 横浜FM	豊田ス	455																																																																																																																									
	11/15	神戸 v 柏	神戸ウイ	353																																																																																																																									
	J2リーグ戦																																																																																																																												
	8/2	新潟 v 札幌	新潟ス	897																																																																																																																									
	9/20	水戸 v 川崎	水戸	336																																																																																																																									
	9/27	大宮 v 広島	大宮	313																																																																																																																									
	10/4	川崎 v 新潟	等々力	400																																																																																																																									
	10/4	湘南 v 横浜FC	平塚	467																																																																																																																									
	10/11	甲府 v 広島	小瀬	329																																																																																																																									
	10/18	山形 v 甲府	山形県	480																																																																																																																									
	10/19	鳥栖 v 横浜FC	鳥栖	255																																																																																																																									
	11/1	横浜FC v 山形	三ツ沢	374																																																																																																																									
	11/1	広島 v 湘南	広島ス	391																																																																																																																									
	11/1	福岡 v 鳥栖	博多球	370																																																																																																																									
	11/16	札幌 v 山形	札幌ド	420																																																																																																																									

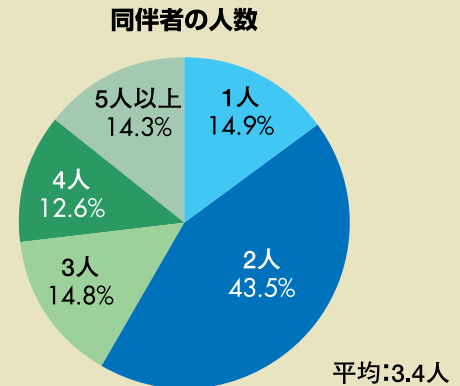
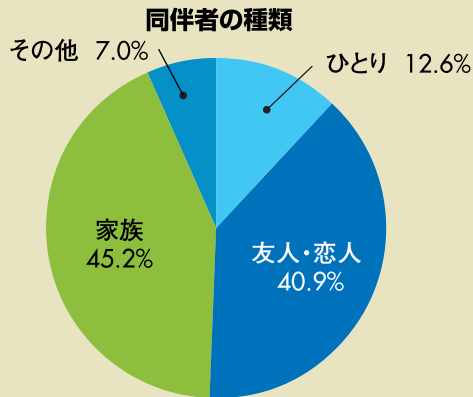
男女比



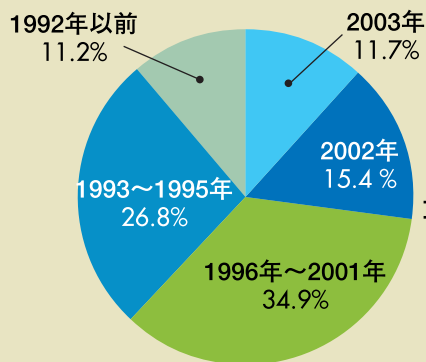
年齢構成比



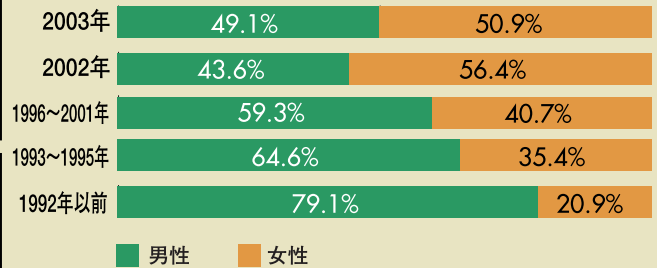
同伴者



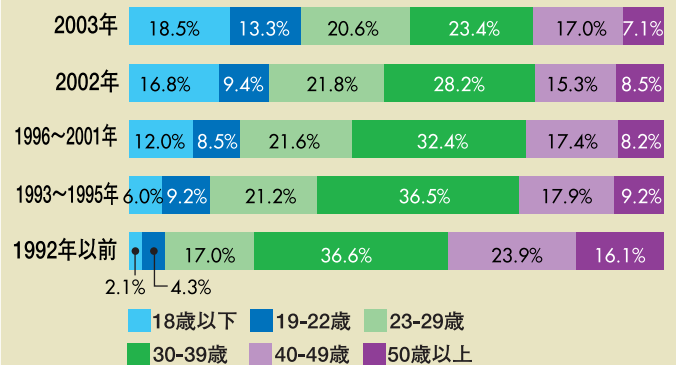
スタジアム観戦開始時期



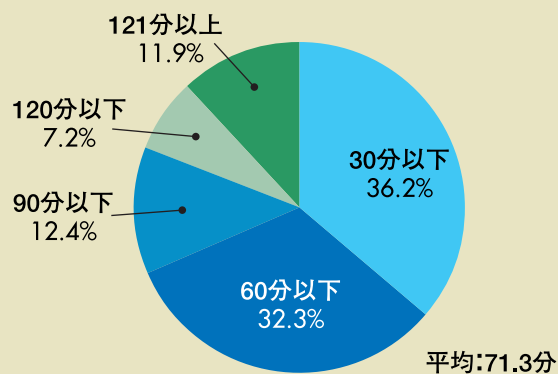
観戦開始時期×男女比



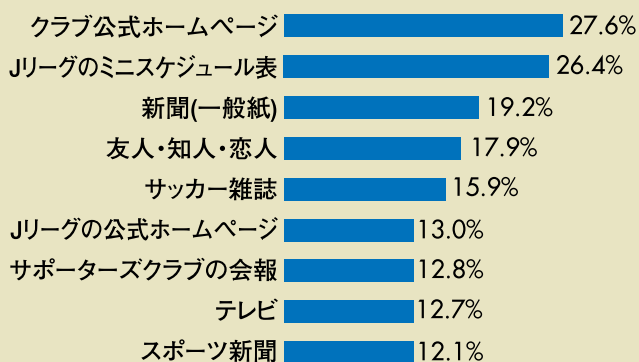
観戦開始時期×年齢構成比



スタジアムへのアクセス時間(片道)

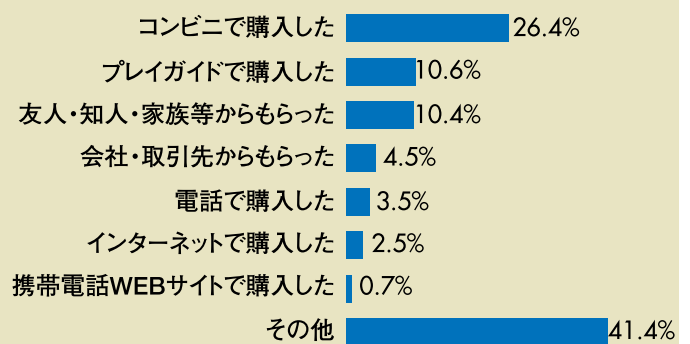


試合情報の入手経路



※回答率10%以上のみ掲載 ※全観戦者、複数回答

チケットの入手方法



※全観戦者

「すべての基本はJリーグにある」 代表強化に向けて

報知新聞社 ◎ 石倉 勇 (いしくら いさむ)

少しだけ爽快な気分になった。
4月25日のハンガリー戦。決定
力不足が深刻化していた日本代
表のJリーグ組が鮮やかにゴール
を奪った。土壇場のPKで後
味の悪い敗戦ではあったが、横
浜F・マリノスの久保竜彦、柏レ
イソルの玉田圭司というJリーグ
を代表する2人のストライカーの
活躍に、凍える寒さのザラエジェ
ルツェグで胸を熱くした。

「シュートが粹に行かなければ
問題にならない」

シュート25本でわずか2点に終わった3月31
日のシンガポール戦後、こう嘆いたジーコ監督
にも朗報だったはずだ。現役時代792ゴール
を積み上げたジーコ監督は、東欧合宿中の日
本代表にシュート練習を徹底的に繰り返した。
「急げば急ぐほど、完璧からは遠ざかる。まずは
正確性、その後にスピード。日本人はスピード
信仰から逃れるべき」と語り、フィールドプレー
ヤー9人に1日で500本の特訓を命じた日もあ
った。

その成果が出たのだろうか。日本代表歴代
最多得点を誇る日本サッカー協会常務理事の
釜本邦茂氏はこう言った。

「急げば正確性を欠く。一瞬止めてから蹴る
ことが大事だが、それは日本代表監督が言うこ
とではない。Jリーグや下の年代の指導者
がきちんと済ませておかなければいけないこと」

日本チーム最大の課題である得点力不足の
責任と原因の多くはJリーグにあると言う。



新潟のJ1昇格などで活気を見
せる今年のJリーグでも、スタンド
の熱気を冷ますような貧弱なフィ
ニッシュは珍しいことではない。昨
季、スペイン式攻撃サッカーで注
目を集めたFC東京も例外ではな
い。最近の3試合、シュート47本
でわずか1得点(4月25日現在)と
いう効率の悪さだ。

ここでもう1つ、見逃せない証
言がある。95年から2年間名古屋
を率い、攻撃的で流麗なチ
ームを構築したアーセナルのア

ーセン・ベンゲル監督はこう指摘した。「フィ
ニッシュは常に日本の弱点。克服しなければい
けない問題だが、攻撃力とりわけ得点力などの
個人能力はクラブで培われるものだ」。昨年6
月、コンフェデレーションズ杯で日本代表の3試
合を観察した名將はリーグの重要性を強く主
張した。

今年で12年目を迎えたJリーグは寸断を繰り
返す、指導者には難しいシーズンになるだろう。
アテネ五輪やワールドカップ予選など代表日程
が複雑に交差する。だが、代表での試合数増
加が、選手からゴールというスキルアップの機会
を奪い、さらに体調不良とパフォーマンスの低
下という事態を招いては元も子もない。

Jリーグは得点力不足の責任を引き受けて、
かつ、リーグの重要性を高めるべく自己主張す
べきだ。強く魅力的なリーグなくして、得点力
不足の解決、ましてや代表強化は絵空事に過
ぎない。すべての基本はJリーグにある。

確かにそうだ。短期間に集合と解散を繰り
返す代表チームは、連携向上など組織としての
完成に時間を費やされる。気の遠くなるような
反復を重ね、スキルを習得することは所属クラ
ブでこそ磨かれるものである。

「試合を繰り返すだけでは意味はない。練
習を繰り返さなければ、課題は克服されない」
と釜本氏は再び指摘する。絶好機を外した選
手はプロである以上、当然責められるべきであ
るが、日本代表の致命的な課題はJリーグの問
題だ。他人事ではない。日本代表の主軸とな
っている欧州組もJを巣立った卒業生だ。

PROFILE

1973年東京都出身。報知新聞のサッカー記者として99年アジ
ア杯、01年コンフェデ杯、02年ワールドカップ、03年コンフェ
杯などを取材。

写真提供：◎ J.LEAGUE PHOTOS
◎ 浦和レッズ



「Jリーグニュース」は100%
再生紙を使用しています。